

JPIC NEWSLETTER

通巻 220 号

2021 年 3 月 10 日

JPIC ONLINE プルースト生誕150周年特別企画 反響大きく、参加者多数

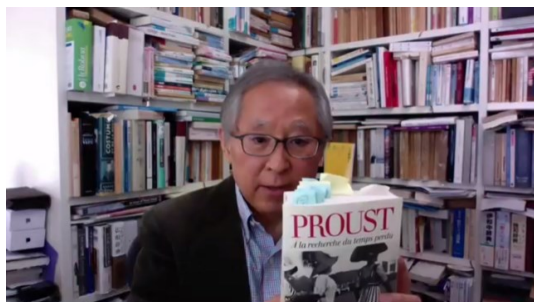
2月は計6つのプログラムを開催しました。

2月4日(木)から開講したライターの名カムラクニオさん連続講座「洋画家の美術史」は2月18日(木)、3月4日(木)の実施を経て全3回を終了。毎回、画家に対する熱心かつ愛慕に満ちた追跡による知見と実物の作品を交えた解説で、穏やかながら興奮さめやらぬ講座となりました。(共催：一般財団法人光文文化財団)

13日(土)は絵本紹介プログラム・JPIC絵本アワー「こんにちは、絵本たち！」(ガイド役：安富ゆかりさん・JPIC読書アドバイザー)を実施。参加者は過去最高の435名を記録しました。

20日(土)は午前『この本読んで！』勉強会「すべての子どもたちに読書の喜びを」を開催。矢部剛さん(伊藤忠記念財団職員)と谷口絵莉子さん(新宿区立戸山図書館職員)に、通常の読書に障碍を抱える方を対象とした電子図書「マルチメディアDAISY図書」を制作している「わいわい文庫」についてとその図書の活用方法についてお話いただきました。

午後は、フランス文学者の高遠弘美さん(明治大学教授)による連続講座「『失われた時を求めて』で挫折しないために」の第1回を開講しました。開講前から反響の大きかった本講座では180名を超える参加者が受講。世紀を違えてもなお愛され続けるプルーストの世界に魅了された様子でした。(共催：一般財団法人光文文化財団)



「無人島に持っていくならこの本」と
プルーストの1巻本を掲げる高遠弘美さん

27日(土)には永江朗さんの連続講座「これからの本・読書・出版界」の第5回「書店をはじめを」を、ゲストに堀部篤史さん(誠光社店主)を迎え開催しました。最終回となる3月20日(土)の第6回は「これからの本を売るしごと」をテーマに、田口幹人さん(楽天ブックスネットワーク)にお話を伺います。

(JPIC ONLINEについて詳細は別紙を参照ください)

JRAC × 「この本読んで！」 第2回 読みきかせの達人が選ぶ 親子で読んでほしい絵本大賞発表！

この度第2回「親子で読んでほしい絵本大賞」がJPIC読書アドバイザーの投票により決定しました。栄えある大賞は『あるへらジカの物語』(あすなる書房刊)となりました。本作は探検家・写真家 星野道夫さんが遺した1枚の写真から生まれており、大自然の野生動物に起きる生命の営みを、絵本作家 鈴木まもるさんが力強くも雄大に描いた大作です。



『あるへらジカの物語』あすなる書房刊
原案：星野道夫 文絵：鈴木まもる

この賞はJPICが発行している「この本読んで！」2020年春(74)号から冬(77)号にて紹介される400冊(2019年9月～2020年8月に刊行される絵本)の中から、JPIC読書アドバイザークラブ(JRAC)の選考委員40名が12冊まで選出し、会員の投票により大賞が決定いたしました。表彰式は、3月16日出版クラブにて行われます。その様子と鈴木まもるさん受賞インタビューを3月20日(土)10:30よりJPIC ONLINEにて配信いたします。(要申込)

選考委員が選出した受賞作品12点は、JPIC HPにて掲載しております。また「この本読んで！」2021年春号内では推薦コメントもあわせてご紹介しております。

JPIC HP

<https://www.jp-pic.or.jp/konohon/oyakoehon/post-4.html>

親子で読んでほしい絵本大賞とは… 親子でもっと絵本を楽しんでほしい！「いい絵本を親子に届けたい！」との思いを込め創設された絵本大賞。今回で2回目の開催。

この本読んで！読者賞とは… 今回より新設された賞。「この本読んで！」の読者124名が投票に参加。

スミセイおはなしひろばオンライン講座 第二弾も盛況に開催

2月28日(日)に「スミセイおはなしひろばオンライン」(主催/公益財団法人 住友生命健康財団 協力/JPIC)が開催されました。

第一部は、柴田愛子さん(りんごの木 主宰)による「絵本から広がる子どもの遊び」。はじめに子どもたちの「ごっこ遊び」について、本を玩具のように扱うときの保育士間の認識などをお話いただきました。続いて、本の世界から遊びの世界への広がりについての事例もご紹介いただきました。絵本がベースにある子どもの空想世界を生かした保育体験談は、日ごろの育児はもちろんのこと、読みきかせのときの対応にも参考になるお話でした。



おだやかに具体的な体験談を伝える柴田愛子さん

第二部は、本間康予さん(JPIC読書アドバイザー)による、大型絵本を使ったおはなし会についての講義。大型絵本をプログラムのどこにもってくるかなど、すぐ実践に生かせる内容でお送りしました。

1月31日(日)と2回にわたって開催したスミセイおはなしひろばオンラインは、1月は872件、2月には971件にのぼる申し込みがあり好評裏に終わりました。

御 礼

JPICは設立30周年を迎えます

JPICは、1991(平成3)年に通商産業大臣(当時)の許可のもと設立され、今年3月27日に30周年を迎えます。

この間、賛助会員をはじめとする、読書の魅力・重要性への深いご理解を持つ行政・教育関係者、読書ボランティア、企業団体など各方面のご支援ご協力があったからこそ、活動を続けることができたこと、心より感謝申し上げます。

現在、JPICは、子どもや若年層に読書の魅力を伝える諸活動(「上野の森 親子ブックフェスタ」「JPIC YOUTH」他各種イベントの開催)、そうした活動の仲間づくり(「JPIC読書アドバイザー養成講座」「JPIC読みきかせサポーター講習会」等の学びの機会提供)、読書環境の整備(行政や企業・団体との協力による読書推進活動の実現、情報誌『この本読んで！』発行やONLINEでの情報発信等)、日本の魅力を世界に発信する翻訳出版事業(JAPAN LIBRARY事業等)などに取り組んでいます。

デジタルネイティブ世代の増大、新型コロナウイルス禍による人々の思考や行動の変化により「本のかたち」「本との出会い」「読書スタイル」などは、これからますます多様化するものと考えています。

JPICの活動もそうした出版・読書活動の変化・振興の一助になれるよう努力をしておりますので、今後とも、いっそうのご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～
今年3月11日、東日本大震災から10周年を迎えます。

被害にあわれた皆様には、その厳しい体験と、その後の復興に向けた道のりに心をいたすばかりです。

JPICも震災後、さまざまな企業団体・個人との協力により、被災地支援活動に取り組んでまいりました。陸前高田市に開設した子ども図書館「にじのライブラリー」はJPICも運営主体の一員になりました。また、全国で唯一の村営書店「ほんの森いいたて」(1995年開設)をJPICとの協力で運営していた福島県飯舘村。原発事故による全村避難を強いられましたが、避難先での読書施設の開設や読書イベントなどで、地域の方々と本を通じた交流が生まれ、JPICにとりましても、かけがえのない活動経験となりました。

NEWSについてのお問合せや詳細資料
ご希望の方は、事務局までお申し付け下さい。

JPIC HPアドレス : <https://www.jp-pic.or.jp>

賛助会員様のイベント情報を発信します！

文責: 中泉 淳(nakaizumi@jp-pic.or.jp)